

大学の図書館 2021 10

第40巻第10号 (No.575)



目次

第52回全国大会を終えて 磯本 善男 ...151

全国大会フラッシュ

 ちょっと裏方、ちょっと参加者な全国大会 得能 由貴 ...152

 「大学図書館研究会 第52回全国大会」Web初参加記 佐藤 正恵 ...153

 オンラインでの『お久しぶりです』- 第52回全国大会に参加して - 藤倉 恵一 ...154

 全国大会で得た「種」 小林 (安藤) 和実 ...155

 全国大会 (第52回) に参加して 松野 高德 ...155

 オンライン! オンライン! オンライン! 野間口真裕 ...156

 オンラインでの全国大会も楽しもう 渡邊 さよ ...157

 全国大会に参加して 西園 由依 ...158

 大会実行委員の振り返り 赤澤 久弥 ...159

参加報告: 2020/2021年度第1回東京地域グループ講演会

 図書館オンライン見学会参加後のご報告 川口 亘代 ...160

第52回全国大会を終えて

磯本 善男

第52回全国大会は、大図研が「大学図書館研究会」に改称して初めての全国大会でした。昨年末に大会実行委員長を拝命し、約9か月間に渡り、私も含め12名の実行委員で全国大会の準備を進めてきました。色々と至らぬ点もあったかと思いますが、実行委員の皆様の多大なご尽力のおかげで、138名の参加者を迎え、成功裏に全国大会を終えることができました。参加していただいた皆様、ご協賛をいただいた企業の皆様に心から御礼申し上げます。

私は、2015年の第46回の札幌大会の時に初めて大会実行委員を務めました。その時も手探りの作業が続き、準備も遅れ気味で、大会開始直前まで不安を拭い去ることができませんでした。それでも道外から準備のために前日入してくださった方々のお顔を見ると、何とかかな、という根拠の無い自信が不思議と湧いて来たのを覚えています。

その時の反省を次回以降の大会に活かそうと、札幌大会以降、ほぼ毎年何らかの形で全

国大会には関わってきました。札幌大会以降、広島、京都、福岡、神戸の大会に参加し、多くの会員・非会員の方々と交流を深めることができたのは実行委員冥利に尽きます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年の第51回大会は初めてのオンライン開催となりました。オンライン開催では実地とは別の難しさもあり、今回も様々な苦労がありました。今大会のノウハウを次の大会に引き継ぐことも大会実行委員の大切な役割です。

全国大会は、全国の会員の皆様が一堂に会する貴重な場です。オンラインでは直接お会いすることはできませんが、全国のどこからでも気軽に参加できるのは大きなメリットだと感じます。全国大会に参加する目的は様々だと思います。各人が目的を持って参加し、それぞれに成果を持ち帰っていただければ、実行委員としてはこれ以上ない幸せです。

来年の全国大会もオンラインで開催することが決定しました。来年もまた、(画面越しですが)皆様とお会いできるのを楽しみにしております。

(いそもと・よしお/千葉大学附属図書館)

全国大会フラッシュ

52回目となる全国大会は、2021年9月18日（土）から20日（月・祝）の3日間、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大の影響で、前大会に引き続きオンラインで開催されました。オンラインでの開催ということで、直接お会いすることはできませんでしたが、138名の方々にご参加いただき、会員総会や分科会、シンポジウム等で交流を深めていただけたと思います。今号では、大会参加者、大会実行委員の方々に、今大会についての率直な感想を書いていただきました。なお、今大会の記録は、12月号に掲載予定です。

ちょっと裏方、ちょっと参加者な 全国大会

得能 由貴

全国大会への参加は今年で2回目でした。昨年は参加者として会員総会や分科会の雰囲気を楽しむ、今年は北海道地域グループの全国委員として分科会の企画に携わりました。このような立場から、第52回全国大会をご報告します。

1日目午前、大会実行委員と全国委員たちは、今日から3日間の進行の確認等を行っていました。通常、参加者にとって全国大会は午後からのスタートですが、私にとってはこの午前の全国委員会から全国大会が始まりました。

午後の会員総会では、冒頭で今年亡くなられた会員2名の報告があり、私からは北海道地域グループ所属の河手太土さんのご紹介をさせていただきました。河手さんは様々な活動に積極的に関われお知り合いの多い方ですから、お元気なら全国大会に参加したかったのではないかと思います。まだ気持ちの整理はつきませんが、河手さんに恥ずかしくないよう今後も大学図書館のことを考えていければと思います。

2日目の午前には、私が担当する第3分科会「資料保存」がありました。発表をしてくださった藤倉恵一さん、堀米拓哉さんにはこ

の場を借りて改めてお礼申し上げます。また共に企画担当となった楫さんには、テーマ決めやスケジュール管理、そして当日の司会など、重たい部分を担っていただき頭が上がりません。企画の段階ではNDC10版への移行経験を発表してくださる方がなかなか見つからず、分科会が成り立たないのではないかと、そもそも分類の移行に興味のある方が少ないかもしれないなどと不安に思うこともありましたが、さすが蓋を開けてみれば、30人を超える方にご参加いただくことができ、とても充実した時間となりました。当日お越しくくださった皆様、また事前アンケートにご協力くださった皆様も、本当にありがとうございます。

さて、午前の分科会を終えた私は、気楽な参加者モードに切り替わりました。来年分科会を担当される方には、午前の担当をお勧めしたい気持ちです。午後は第7分科会「図書館建築・デザイン」に参加し、和歌山大学図書館長を務められた渡部幹雄さんの「地域文化をはぐくむ図書館建築と図書館の役割」という講演を拝聴しました。古民家を改装しDIYで図書館を作られたお話、またそれまでの経験の中で数々の図書館を運営されてきたお話を伺い、地域で求められる図書館とは何かという問いに多くのヒントをいただけたように感じました。

大会を通して、オンライン開催は良いなど

いう感想を持ちました。知り合いを作りにくいなど歯がゆい点もありますが、出不精な私には参加のハードルが下がりましたし、講師の方に予定を開けていただいたり、現物をカメラの前に見せていただきながらお話を聞くことができたりしたのもオンライン開催の良い点だったと思います。準備に尽力された実行委員の皆様、誠にありがとうございました。

(とくのう・ゆき／北海道大学附属図書館)

「大学図書館研究会 第52回全国大会」Web 初参加記

佐藤 正恵

2021年9月18日(土)～20(月・祝)にオンライン(Zoom)で開催された標記大会に参加した。筆者は2021年9月に大図研に入会したばかりの新参者である。大学図書館勤務経験はあるが、現在の本務は病院図書室司書であり、社会人大学院生として図書館情報学を学び、大学の図書館司書課程で講師を務めている。利用者としてカウンターの外側から大学図書館を見つめるアウェイな立場で、当日は他のWeb会議との掛け持ちでスマートフォン視聴のためすべてのプログラムに参加できなかった。そのため参加記として十分ではないが、新鮮な目で印象に残った話題を記す。

まず、加藤信哉氏による基調講演「大学図書館の位置づけについて」は、新たな局面に向かう大学図書館(特に私立大学)の役割について、教員や学生の立場からも自分事として考えさせられた。

9/19(日)午前の第4分科会：キャリア形成「子育てと仕事の両立を考える」

会報7月号との連動企画である。「交流を通じて元気になれるような分科会にしたい。将来、子育てをしたいと考えている方や、子

育て中の同僚を持つ方も是非ご参加いただきたい。」と案内にあるように、講師各氏の体験談、アンケートの集計と提示、チャット機能を活用した質疑応答など、担当の柿原・中川の両氏がスムーズに参加しやすい雰囲気を作ってくださった。筆者は子育てと介護は卒業し、職場ではサポートする立場だが、キャリアはジャングルジムのようなもので、ネットを活用して情報収集や学びを続ける環境は整ってきていると改めて感じた。男女年齢問わず心身の健康を第一に過ごすヒントを得られたと思う。

シンポジウム「アフターコロナの大学図書館：アフターコロナ社会の情報提供を考える」シンポジストの小嶋氏の講演は、事例を交えて多角的な視点から情報の受発信について示唆に富むものだった。全体を通じてウェブ開催のメリットを享受できた大会であった。交流会など初参加でも画面上で顔が見える楽しさを感じた。特に見逃した協賛企業や発表資料の配布や、事務局の問い合わせZoom窓口が常設され、顔を見ながら相談できるのは秀逸なアイデアである。その分、見えないところでの事務局のご準備や運営、事後処理のご苦労は察するに余りあるが、子育てや遠方であっても「学びやつながりをあきらめなくてよい」場を提供いただけることは、キャリアをつなげるためにも大切なことだろう。一方で、インフォーマルコミュニケーションの重要性も再認識できた。今回画面上でお目にかかった皆様と、対面でお会いできる日が来ることを願っている。

(さとう・まさえ／

跡見学園女子大学 兼任講師)

オンラインでの『お久しぶりです』 - 第52回全国大会に参加して -

藤倉 恵一

9月19日(日)、久しぶりに全国大会に参加しました。とはいっても全日程ではなく、諸般の事情によりこの1日だけの参加。

大会といえば日常を離れ、勉強ついでにご当地の美味しいごはんやお酒やら、でもっておなじみの方々や新しい顔なじみと交流するまたとない機会(後者の方に力が入っているのは何故)。と言いつつも、またしても今回はオンライン。

さて、今回わたしが参加した分科会は2つ。午前中は第3分科会「資料保存」と、午後は第6分科会「図書館経営」です。

前者は「NDC10版への移行」がメインテーマということで、JLA分類委員の1人でもあるわたしに発表のオファーが来たのでした。NDC10版刊行から6年、そろそろ図書館の現場にもだいぶ浸透してきたと思いますが、当分科会の参加者は30余名と多く、まだまだ関心が高い、あるいは現場の問題が根深いことが窺えました。またもう1件の、堀米拓哉氏(日本大学図書館歯学部分館)は独自分類の移行作業については興味深く拝聴しました。後半のディスカッションもかなり活発だったと考えます。これは大会分科会ならではの、単に「質疑応答」にとどまらず参加者側の意見を聞くことも参加の楽しみですが、今回も旧版を使用していた図書館での大規模な移行事例をお聞きすることができ、これも興味深いものでした。

午後は「危機管理」がメインテーマ、そして中心となるのはやはりコロナ禍での諸対応でした。小陳左和子氏(東北大学附属図書館)が講師、続いての事例報告は分科会運営を担当された赤澤久弥氏(大阪大学附属図書館)、鈴木正紀氏(文教大学越谷図書館)それぞれによるものでした。特に強く印象に残ったの

が小陳氏の講演でした。小陳氏の館は東日本大震災ほか大規模地震、台風による漏水、そしてコロナ禍と、この10年あまりのうちに何度となく受難しています。その中で得られた教訓として館内外の連携、情報発信、そして筆者の印象に何よりも強く残ったのは、それらの災厄と対応を「記録する」ことでした。

後半のディスカッションでは講演と2件の事例報告を受けて、やはり様々な情報交換が行われました。午前中の分科会同様、ここでもまさに参加者相互での情報・意見交換が活発に行われ、特にコロナ対応に関する様々な予算取りや運営上の工夫など、業務の参考となる情報がいくつも展開されました。

分科会への接続テストを含めれば朝の9時から17時までほとんどPCの前にじっとしていましたが、それが短い時間と感じられるほど濃密な1日でした。

オンラインは「余禄」こそ少ないものの、移動距離を考慮しなくてよいなど、明らかに参加のハードルを下げています。

わたしの場合、今回3日間の大会日程のうち、初日は別席での研究発表があり、最終日は私用に都合がつかず2日目のみの参加となったのですが、こうなると地元開催でもない限り「じゃあ参加は諦めよう」となってしまうところですが、これはオンラインのせめでの利点でしょうね。

ともあれ、大会に参加された皆様、運営の皆様、おつかれさまでした。「お久しぶりです」という方も直接会話はできませんでしたが、同じ時間を共有できたことがうれしいです。

来年もオンライン開催とのことですが、また直接お目にかかり、大会開催の地を堪能できる日がなるべく早く戻ってくることを願ってやみません。

(ふじくら・けいいち/

文教大学越谷図書館)

全国大会で得た「種」

小林 (安藤) 和実

8月、私は全国大会に参加するか迷っていました。6月からメーリングリストに告知が来ており、今年度の大会に思いを馳せていましたが、9月の3連休全日ということもあり、申し込みを躊躇っていたのです。小学生を2人持つ私は、連休3日間を自由に過ごすことがなかなか難しく、自分の用事で貴重な連休を潰して良いのか随分迷いました。しかし、オンライン形式であれば移動時間なども無いため、思い切って3日間すべてのプログラムへの参加を決めました。これが対面でしかも遠方であったら、参加するという選択肢は最初からありませんでした。オンラインでの開催は、対面よりも疲れやすく、通信状況が悪くなり音声途切れることがあるなどのストレスもありますが、私の現状では非常にありがたい開催方法です。

肝心の大会についてですが、全てにおいて示唆に富み、沢山の刺激を受けました。今回特に面白いと思ったのは、企業協賛プレゼンテーションの企画です。昨年度はなかった企画で、今回3社のプレゼンテーションがありました。気楽に参加して良いということだったので、軽い気持ちで参加しました。普段、業務に必要なサービスを業者から聞くことはありますが、今回のように偶然の出会い的に各社のサービスや思いなどを聞く機会は少ないと思います。企業も図書館を支える仲間という側面があることを、再認識できました。今後もこの企画が続くことを願います。

また、大会の運営も素晴らしいものでした。メールでのきめ細やかな連絡もそうですが、大会期間中のサポートが充実していたと感じます。私は今回、事務局部屋に助けられました。大会期間中、いつ来るかわからない訪問者のために事務局部屋で待機するのは大変だと思いますが、快く相談に乗っていただきま

した。このようなサポートがあるからこそ、参加者は安心できるのだということを実感しました。

シンポジウムで実行委員長の磯本さんがおっしゃっていたように、全国大会はきっかけにすぎません。日常業務が多忙の中、すぐに活かすことはできないかもしれませんが、得たものは、「種」となって参加者の中に残っているはずで、種が芽吹き、いつか花を咲かせることができるよう、日々の業務に励みたいのです。

最後に、沢山の刺激をくださった登壇者の皆様、参加者の皆様、そして運営委委員の皆様ありがとうございます。次年度の大会も楽しみにしています。

(こばやし (あんどう) かずみ/

東京都立大学)

全国大会 (第52回) に参加して

松野 高德

第52回 (2021年) 全国大会は、三日間の開催期間中、どうしても対応しないとけないう所が二日目午前であり、対面方式であれば参加そのものを断念するところでしたが、オンライン開催であったことで都合のつく時間帯で参加することができました。

昨年の全国大会は、一日目が会員総会・研究発表、二日目が分科会みの構成で、記念講演、懇親会、自主企画、シンポジウムは取りやめとなっています。今回の全国大会は、記念講演、自主企画、シンポジウムも復活し、ほぼコロナ蔓延防止対応以前の企画に戻りました。全国大会開催関係の皆さま、ありがとうございます。

会員総会は、オンラインでの開催2回目となりますが、活発な意見交換というところまで到達できていないように感じます。集合形

式の会員総会でも若手会員が発言しにくい雰囲気だった気がします、オンラインになったことでその場の空気を読みにくいのかもかもしれません。討議資料の「大学図書館をめぐる動き」は、現在の大学図書館を巡る状況を理解する第一級の資料です。全国委員の皆さんが分担執筆されているかと思しますので、執筆者に発言いただくとかで意見交換のとば口としてもよかったですね。番号を付した議事資料以外に会則改正、綱領とガイドラインのアーカイブ化、2013年8月10日制定のミッションステートメントの維持が承認されています。会則改正では、メーリングリストDTKで改正条文の表記等を指摘しましたが、他の方からのご意見はありませんでした。図書館の諸規程を整備することもありますので、適切な用字、用語、言い回し等の知識やルール（「法制執務」）の習得も必要かと思えます。

記念講演（「大学図書館の位置づけについて」加藤信哉氏）では、大学図書館の学内での地位の低下、大学の教育、研究、社会貢献についての図書館から積極的発言（提言）をすることが指摘されました、同感です。「大学設置基準改正を巡って」で言及の日本私立大学連盟の提言「ポストコロナ時代の大学のあり方～デジタルを活用した新しい学びの実現～」では、図書館司書について「基準で想定されている専門的職員（第38条3）である司書は図書館機能の多様化に伴って、図書館職員に求められる能力も多様化したため、形骸化している。」としています。図書館機能の多様化では、焦眉の課題の研究データ管理に係る業務は、誰が担当（図書館職員、URA担当職員、URA担当部署が設置されていない大学も多くあります。）するか気になるところです。

二日目の分科会は、午後の第五分科会＝学術情報基盤（電子資料の利用を促すための利用統計の作り方）のみ参加しました。

COUNTER (R4) とか COUNTER (R5) の統計数値の意味するところの理解が少し進みましたし、図書館現場では利用統計は誰が整理するのが問題のようです。※この分科会、学術情報基盤グループが担当です。このグループのオンライン読書会、隔週日曜午前九時から開催で、昨秋から参加しています。現在は、「大学における研究データポリシー策定のためのガイドライン」を輪読中で、時々図書館に係る話題について情報交換することもあります。

三日目のシンポジウム（「アフターコロナの大学図書館－アフターコロナ社会の情報提供を考える」）の3人の登壇者からの報告、アフターコロナの前の状態と現在の関係、大学生協の電子書籍・教科書の事業（DECS計画）の展開、電子リソースのIP認証から個別認証へ転換等、勉強なること大でした。

以上、全国大会に参加したところを自分なりに整理してみました。

（まつの・たかのり／

椋山女学園大学図書館）

オンライン！オンライン！ オンライン！

野間口真裕

この原稿は全国大会の雰囲気・内容の速報ということで、私が参加した3日間について書きたいと思います。まず、初日は会員総会と研究発表、記念講演、交流会に参加させていただきました。オンラインですので、PCでURLをクリックしましたらスタートです。会員総会では活動報告や決算報告に加え、全国委員会を挟んで今回の全国大会の発表、会則改正（案）の質疑などが行われました。埼玉地域グループの解散報告にとっても驚き、少し寂しさを感じました。また、今回の大会は

オンラインでということも発表されました。今年もオンラインでしたが、来年もオンラインとのことで、これからはこういう形が増えていくのかなと思いました。グループも地理的なものではなく、より意識的な集まりが志向されていくのかもしれませんが。会員総会后、研究発表が行われました。研究発表は久保山健様の「ウェブスケール・ディスカバリー (WSD) 利用者の利用状況と認識 - インタビュー調査による探索的研究 -」の発表を大変楽しみにしていましたので、興味深く参加させていただきました。記念講演は加藤信哉様の大学図書館の位置づけについて、大学の競争激化や大学内での位置づけなど色々考えることの多い内容で、また、資料を折りに触れ、確認していかなければならないと思いました。交流会は、やんわりとグループ紹介を頼まれていたのですが、少しの説明の後、さらに別の人に振らせていただきました。きれいにまとめていただきましたグループ会員の皆様に感謝です。小人数部屋に出たり入ったりというのは面白い試みに思えました。次に2日目、私は第2分科会と第5分科会に参加しました。こちらは、記録は別の方がご担当ですので、感想を。第2分科会はILLについて色々聞きたいこともあり、色々伺いましたが、なかなか困っている現状を打破するには難しく、個人的にはもう少しユーザーとブローカーの関係について考えていきたいと思いました。第5分科会はどちらかというと運営側でしたので、COUNTER5に詳しい方が色々補足していただき会が成り立ち、ほっとしました。ホワイトボードがわりのGoogle Docsがチャット状態になり、ちょっと面白かったです。話すより読むこと、書くことがお好きな方も多いのだなと思いました。途中の企業協賛のイベントは録画ありのプログラムで、こういう企業協賛の仕方もあるのだと感じました。どちらの皆様も非常に参考になるプレゼンでした。3日目はシンポ

ジウムでたくさんの方が参加されていました。構成がかなり面白く、COVID-19とともに色々考えて図書館が変わっていかねばならないと思いました。特に大学生協様の話も伺ってそう思いました。

最後に、3日間充実した全国大会でした。実行委員長、実行委員の皆様、開催にご尽力ありがとうございました。コロナ禍の中、無事盛会にて開催いただきましたこと、その会に参加させていただいたこと、厚く御礼申し上げます。

(のまぐち・まさひろ/京都教育大学)

オンラインでの全国大会も 楽しもう

渡邊 さよ

私が全国大会に参加するようになって、15年程になります。最初の数年間は会員外で、その後会員になってからも含めても気が付けば(全日程ではないものの)毎回参加の皆勤賞。毎年地域持ち回りでの開催で、行く機会がないような地域にも行くきっかけになりました。北は北海道から南は福岡、支部(地域グループ)の無い山形などなど。どれも良い思い出です。コロナ禍の影響でオンライン開催を余儀なくされ、移動の負担はなくなりましたが、開催地ならではのテーマ・企画や、何より参加者の皆さんとの交流の場が減ってしまったのが、個人的な残念ポイントです。移動準備などがないせいか、大会の日程が近づいてくるワクワク感も薄いような気さえしています。

さて。ひとしきり思い出語りをしたところで、本題の今大会の振り返りに入りましょう。去年に引き続き、今年もオンラインで開催されましたが、運営方も参加者もオンラインの仕様に慣れてきたせいか、スムーズに進行さ

れたように思います。私が参加できたのは、1日目の会員総会～研究発表・記念講演～交流会。2日目の第3、第6分科会。自主企画の「オンライン地酒の会」。3日目のシンポジウムは7割程。ほぼフル参加ですね。

研究発表や記念講演では新たな関心の種を、分科会では着目や継続の大切さを、シンポジウムでは新たな視点について受け取ったように思います。すべてを自分のものにするのは難しいですが、参加したことによる成果はあったように感じています。(それぞれの詳しい内容については大会記録号の参加者レビューをお楽しみに。)

また、今回新しい試みとなった、交流会や地酒の会も、オンラインならではの形で意外と楽しめました。リアルに比べて参加人数が少なかったのが残念でしたが、その分コアなお話もできました。参加を迷われた方は、ぜひ次回は参加検討された方が良いと思います。

最後に個人的な反省点をひとつ。今回の会員総会には、並々ならぬ緊張感を持って臨んだのですが、案の定役不足から残念な結果に。周りの皆さんの凄さをあらためて感じました。リベンジの機会はないと思いますが、何処かで生かせたらと思います。チャンスをいただきありがとうございます。

来年は引き続きオンラインでの開催が決定しているとのことですが、発表・研修の内容だけでなく、会として新たな試みやその次に続く形になることを期待し、今から楽しみにしています。

(わたなべ・さよ／広島経済大学)

全国大会に参加して

西園 由依

昨年に引き続きオンライン開催となりました

たが、今年の全国大会も画面越しにみなさまの真摯な姿勢に刺激をいただきました。ささやかですが、参加したプログラムの中から所感をご報告します。

・第3分科会 資料保存「日本十進分類法新訂10版への移行と既存資料」：分類法の新版移行における既存資料の取扱いについて議論が行われました。当館ではほぼ、整理時期に採用していた版による分類が維持されたままなのですが、新版移行による再分類を考えるにあたってのポイントを、事例を交えながら掴むことができました。分類法の「法」はルールではなく方法である、とのコメントや、自機関に最適化した独自分類を策定して利用者の便を図っている事例報告は、何のために分類を行い運用するのか、という基本を再認識させてくれました。

・シンポジウム「アフターコロナの大学図書館」：当館における電子書籍の購入は年々増加していますが、コロナ禍であらためてもどかしく感じたのは、欲しいものが必ずしも売られている訳ではない、という従前からの課題です。自分が選書を担当している学部だと、シラバス指定図書のうち電子書籍も購入できるのは1割程度でしょうか。一方で学生さんと電子書籍の利用について話すと、利用しているという電子書籍は図書館が提供しているものではなく、個人で購入しているもの(教科書系で図書館向けの販売はされていないもの)を指していることがよくあり、図書館として役割を十分に果たせていないと悩ましい思いになります。そのためシンポジウムの中でも特に電子書籍をめぐる議論に聞き入っていました。コロナ禍は様々な困難をもたらしていますが、これまで抱えてきた課題を解決するための一つの推進力にもなっていると思います。図書館単独だけでなくステークホルダーが協働してできること、図書館だからこそできること／やるべきこと、短期的視点と長期的視点の双方から考えたいと感じまし

た。

全国大会については、本誌に掲載される総会資料「討議資料:大学図書館をめぐる動き」も、1年間の動向を俯瞰的に振り返り、重要トピックを整理するのに毎年大変役立っています。普段の情報収集がいかに不足し偏っているかを反省しつつ、執筆者の方々に深謝申し上げます。

(にしぞの・ゆい／鹿児島大学附属図書館)

大会実行委員の振り返り

赤澤 久弥

第52回全国大会は、昨年度に引き続きオンライン方式により、9月18日(土)から20日(月・祝)の3日間にわたり、開催されました。参加された皆さんからの速報は今号の記事に、詳細な報告は12月号に譲り、ここでは大会実行委員会の一人としての所感を交えた、大会運営に係るご報告をします。

初のオンライン実施となった第51回大会の後、翌大会の候補地は、秋田市となりました。しかしながら収束しないコロナ禍の中、オンサイトかオンラインか、ぎりぎりまでの見極めを経て、最終的にオンライン方式での開催となりました。第51回大会では、初のオンライン開催ということでコンパクト化したプログラムですが、今回は、3日間の日程としてシンポジウムも実施すること、交流会や記念講演の実施も前提とすること、また、協賛企業のプレゼンタイムを設けることとしました。さらに、前回大会収支等の検討を踏まえ、会員参加費は無料としました。こうした大枠の方針は、3月20日にオンラインで行われた全国委員会で決定されたものです。

その後、磯本実行委員長の下、実行委員の募集をはじめ、準備が本格化しました。準備を進めるにおいても、新たな取組み等の実施

においては、従来どおり、常任委員会の確認を得たり全国委員会の審議を経たりする手順を踏んでいます。これは、今後も続く大会運営の形を整えるにあたって必要な手順となります。例えば、6月中旬にメール審議により実施した全国委員会の議を経て、プログラムでは、休憩時間確保などオンライン方式に即した進行への修正や自主企画実施の決定、運営面では、実行委員会内でのよりスムーズな情報共有や次回への記録引継を視野に入れたbacklogの導入、事務合理化のための実行委員会印の電子印影導入などを行いました。なお、その他の改善として、参加申込と参加費支払の合理化のため、大図研オープンカレッジでの利用実績を踏まえて、Peatixを導入しています。

実行委員は、少数ながらも、前大会から継続しているメンバーが多かったこともあり、オンライン方式の確立や改善を含め、連携しながら比較的スムーズな準備や運営ができたと感じています。とはいえ、記念講演やシンポジウム等のプログラム企画、大会ウェブページの作成更新、Twitter運用やチラシ作成による広報、内製による予稿集の編集作成、協賛企業とのやり取り、参加者管理や会計処理など、裏方の仕事は少なくありません。また、オンラインならではのZoomの準備や大会期間中の各プログラム進行のバックアップもあります。次回もオンライン大会となりましたので、こうした経験やスキルは、大図研の中で引き次いでいく必要があると思います。

大会期間中は、とくに大きなトラブルもなく進行できたように思います。参加者がオンライン企画に慣れたことと共に、オンラインならではの進行に協力してくださっていることを感じました。また、各分科会を企画された全国委員、時宜にかなったお話をされた記念講演やシンポジウムの登壇者、研究や実践の報告された研究発表者、自主企画の企画者、

そして協賛いただいた企業各位により、全国大会という場が成立することも、あらためて感じました。参加いただいた皆さま、運営に協力いただいた皆さまには、重ねてお礼申し上げます。

さて、コロナ禍によりイベントのオンライン化が進む中、距離を問わない分、全国大会のような催しに参加することも容易になっています。しかしながら、どんな催しであれ、

企画し、準備して、運営するという役割が必要なのは言うまでもありませんし、その役割をもって得られるスキルや充実感があります。大図研は参加するだけでなく、発表や運営をする側に回ることもできる団体です。これからの全国大会も、皆さんと作り上げていければと思っています。

(あかざわ・ひさや／大阪大学附属図書館)

新規会員募集について

大学図書館研究会事務局組織担当

日頃より組織運営にご理解、ご協力を頂きましてありがとうございます。

さて当研究会では図書館にご関心があるより多くの方に、知見を広げる機会をお持ち頂くだけでなく、ご自身の知見も共有し、様々な活動を一緒にして頂くために、新規会員を募集しております。

会員の方には、会報『大学の図書館』の購読、全国にある地域グループや研究グループによる様々な例会イベントへの参加、メーリングリスト dtkML を使った情報共有など、有意義な会員特典がございますし、ご自身の関わり方次第でさらに様々な経験をして頂くことが可能です。

図書館関係者の皆さまにおかれましてはぜひ、周りのみなさまへのご周知方についてもご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

みなさまの身近に、大学図書館の未来を考えたい方、大学図書館の歴史を知りたい方、大学図書館の機能を探求したい方、そして広く大学図書館に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、大学図書館研究会をご紹介ください。ご入会をぜひお勧めください。

大学図書館研究会 入会案内・入会申込ページ

https://www.daitoken.com/admission_guide/index.html

会員情報（ご連絡先住所、メールアドレス、所属など）について変更があった場合は、その都度、組織担当までご連絡をお願いいたします。

会の安定的な運営のため、ご理解ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

【問い合わせ先】

入退会および会員情報について：事務局組織担当 soshiki@daitoken.com

参加報告：2020/2021年度第1回東京地域
グループ講演会

図書館オンライン見学会 参加後のご報告

川口 亘代

6月19日(土)に開催されました、大学図書館研究会東京地域グループの企画による、九州大学中央図書館並びに神奈川大学みなとみらい図書館のオンライン見学会に参加させていただきました。本来でしたらこういった見学会は現地で開催されるとのことですが、パンデミックの最中ということで、Zoomを介したオンラインによる催しとなりました。120名を超える参加者を迎え、東京地域グループのスタッフの方々からの挨拶の後、さっそく見学会が始まりました。

まずは九州大学中央図書館です。13年間という長い年月を経て2018年秋、伊都キャンパスに完成したばかりというまだ新しいこの図書館をご紹介くださったのは、移転当時、実際に現場で勤務されていたという齋藤さんと金子さんです。実際に訪れて見学をさせていただくような感覚で、たくさんの写真、資料、動画を取り入れてとてもわかりやすく、臨場感を持って説明してくださいました。海と山に囲まれた大自然のなかに建てられた総面積19,279㎡、収容冊数は約350万冊という大規模な図書館で、館内は全てのフロアを見渡せる、開放感のある吹き抜けが印象的です。その吹き抜けを囲むように配置されたブックウォール、また、フロアごとに分野をまとめたという資料の配置も特徴的です。200万冊にも及ぶ開架図書に対し、いかにうまく利用者をナビゲートするか、という点には工夫がされていて、例えばフロアごとにカラーを設定したり、誘導サイン、書架サイン

などを効果的に配置したり、またOPACの検索結果からも誘導ができるよう、配慮をされたそうです。また、コロナ禍における取り組みについてのご紹介もあり、例えば、オンラインで図書館ツアーを配信されたり、留学生向けに折り紙教室を開催するなどのイベントも実施されているそうです。通常の生活が戻るようになれば、また以前のように吹き抜けの作りを活かしたイベントや演奏会の開催が期待されます。

続いては今年4月にオープンしたばかりという、神奈川大学みなとみらい図書館です。横浜のみなとみらいのエリアにはもともと図書館がなく、地域からの要望もあり、建設がされたとのこと。都会にそびえるモダンな21階建てのビルの中にあり、図書館はソーシャルコモンズの一部として、低層階(2、3階)に位置しています。ご紹介くださったのは、スタッフの吉場さんと小池さんで、図書館の中を実際に歩いて回ったような気分になれる動画を見ながら、細部にわたりご説明くださいました。館内は、見晴らしを意識して、書架は3段までの高さに限定をしていたり、カウンターを低く設定し、デスクトップパソコンの代わりにノートパソコンを利用することで、カウンターの内と外とを一体化して見せる工夫をされているところも、従来の図書館のイメージとは異なり、斬新でした。また、図書館内に全面ガラス張りの情報教室を設けられているところも、目新しいものでした。利用者が各自で貸し出し処理をできるスマートフォンアプリについてもご説明くださり、技術面でも最先端をいかれているなあという印象を受けました。こういったアプリの活用も含め、非対面サービスの拡充にはキャンパス全体で取り組んでいらっしゃることと、これもコロナ後の社会においては、他の多くの図書館でも検討が求められるトピックではないかと思いました。

今回、2つの図書館を見学させていただき、

大学の図書館 第40巻第10号 (No.575) 2021年10月25日 (毎月25日発行) ISSN : 0286-6854
編集・発行 : 大学図書館研究会 年間予約購読料 : 送料共5,000円

□大学図書館研究会出版部 (出版物購入・問い合わせ窓口)

〒195-8585 東京都町田市金井ヶ丘5-1-1 和光大学図書・情報館気付

Fax : (044) 989-2250 E-mail : shuppan@daitoken.com

<出版物購入代金等振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 : 00140-6-482205 大学図書館研究会出版部

三菱UFJ銀行 越谷駅前支店 普通口座 : 1403054 大学図書館研究会出版部

□大学図書館研究会事務局

〒305-8550 茨城県つくば市春日1-2 筑波大学図書館情報メディア系 呑海研究室気付

E-mail : dtk_office@daitoken.com

<会費振込先> ゆうちょ銀行 振替口座 : 00190-2-79769 大学図書館問題研究会

どちらの図書館も、現場のスタッフの方々のアイデア、利用者に対する配慮や思いが、たくさん詰められていて、それらがうまく活かされていることに深く感心させられました。私自身、現在、図書室の再構築プロジェクトにあたっており、規模は全く異なり小さいですが、そこでも応用させていただけるヒント

を得られた気がします。素晴らしい機会をいただき、ありがとうございました。

(かわぐち・のぶよ/ブリティッシュコロ
ンビア大学 (コンピュータサイエンス学部
リーディングルーム))

2021/2022年度 運営サポート会員を募集します

常任委員会

本年度も、会務をサポートする運営サポート会員を募集いたします。

我こそは、と思う会員のみなさま、問合せ先までご連絡をお願い申し上げます。

なお、諸般の事情で、お申し出に沿えない場合もありますので、ご了承ください。

今回募集するのは、以下の委員会です。

- ・研究企画委員会
- ・会報編集委員会
- ・会誌編集委員会
- ・広報委員会
- ・記念出版物編集委員会
- ・事務局出版担当
- ・事務局組織担当

業務の内容は、お問合せくださった方に、常任委員の担当からご連絡いたします。

【問合せ先】

大学図書館研究会事務局 dtk_office@daitoken.com